

ボランティア ニュース

No.364

エコー ボランティア体験日

2月6日(月)に音訳グループ「エコー」のボランティア体験が開催されました。
はじめに、口の体操をした後、季節の歌である「雪」を歌ったり、中国新聞の切り抜きや広報誌の吹き込みを体験しました。




音訳グループ「エコー」
活動日：第1・3月曜日
時間：10時～12時
場所：大野支所3階
ボランティアルーム
お問い合わせ：☎55-3294

体験に来られたNさんは、「何かしたいなと思った時にエコーメンバーの方に誘ってもらいました。イントネーションやアクセント、スピード、声の大きさ、滑舌など気を付けることがたくさんありました。特に、読むのが難しい漢字もあり予習が必要なんだと感じました。でも、皆さんが優しく教えてくれて興味が湧きました。再来週は短い文を読ませてもらうので頑張りたいです」と話されていました。

エコーの皆さんが優しく教えてくださったり、相手が聞きやすいように心を込めて吹き込みをする姿勢、活動内容の説明を丁寧にしてくださったことで温かい雰囲気や声に包まれながら体験日を終わることができました。
音訳グループ「エコー」の活動で気になることがありましたらお気軽に社協へお問い合わせください。



パンダのキーホルダーでみんな笑顔

1区にお住まいで90歳の宇都宮福巳さん。綿の糸で作るパンダやランドセルのキーホルダーをたくさん持ってきてくださいました。
社協前にたくさんのキーホルダーを置かせてもらいました。置き始めてから「すごい可愛いね」「習ってやってみたい!」「孫のランドセルにつけてあげる」「男性が作ったと思えない!とても手先が器用な方なんですね」と言って帰られる方がたくさんいました。



みなさんからの嬉しいお言葉を宇都宮さんに伝えに行き、お話しを伺いました。
キーホルダーを作り始めたのは、交通事故がきっかけで、約2年間の入院生活。その時、なにかやらなくては!と思いついてテレビの切り絵の放送を見て、いつか役に立つのでは!と思いついで申し込み、授業を受けました。そこから切り絵→紙粘土→ビーズのハンドバッグ→綿の糸で作るキーホルダーと、どんどん作るように。



宇都宮さんは、「今は、目が見えにくくキーホルダーを作っていません。もし、「作ってみたいな」と思われる方がいましたらまだ材料もあるので、教えることはできます。みなさん喜んでくださったみたいでとても嬉しいです。」と話されました。



ボランティアというたくさんありますが、宇都宮さんが一生懸命丁寧に作り、気持ちのこもったキーホルダーをたくさんの人に届け、喜んでもらったことは、幸せな気持ちを届けるボランティア活動の一つです。
社協は、これからもホッと温かくなるようなボランティア活動を応援し続けます。



親子の居場所

「十人十色おしゃべりサロン」

いろいろな理由で学校に行けていない子と保護者が集まって、情報交換ができる場です。
自分のペースで過ごせます!
まずはおしゃべりしませんか?
参加費無料、時間内は出入り自由です。

【とき】
令和5年4月11日(火)11時～15時
5月10日(水)11時～15時

【ところ】
大野支所 3階 ボランティアセンター
※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止する場合があります。

おしゃべり会

障がいのある子どもを育てる保護者が集まって「おしゃべり会」を行なっています。子育ての悩みを相談し合ったり、楽しくおしゃべりしたりと、さまざまな情報交換(…という名のおしゃべり)をしています。
徐々に参加者も増えて賑やかになっていきます。小さなお子様連れも大歓迎です。おしゃべりをしてリフレッシュ♪楽しく一緒に過ごしませんか?

次回4月19日(水) 10時から12時

